

医療法人誠井会 中長期計画作成作業部会

## 第7期(平成30年度～平成32年度) 中長期計画書

### はじめに

第7期中長期計画のスタートの年である平成30年度の改定では、地域包括ケアシステムの推進、自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現、多様な人材の確保と生産性の向上、介護サービスの適正化・重点化を通じた制度の安定性・持続可能性の確保が掲げられている。

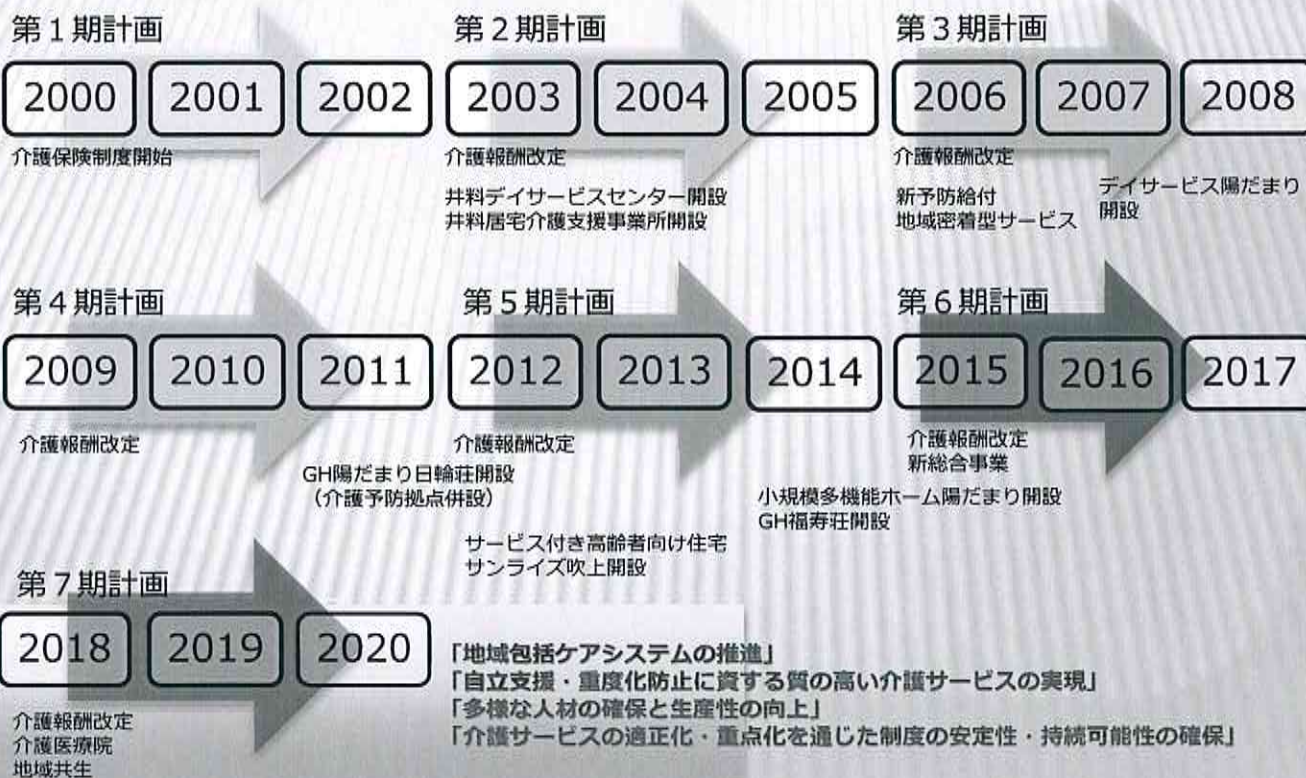
中重度の要介護者も含め、どこに住んでいても適切な医療・介護サービスを切れ目なく受けられる体制の整備を目指し、ターミナルケアの実施数が多い訪問看護事業所や、看護職員を手厚く配置しているグループホームに対する評価が新設されたり、特別養護老人ホーム内での看取りを促進するため、一定の医療提供体制が整った施設内で、実際に利用者を看取った場合の評価を充実させるなどの方向性が示された。

また、新たに介護医療院を創設し、介護療養病床などからの転換を促進されていく。

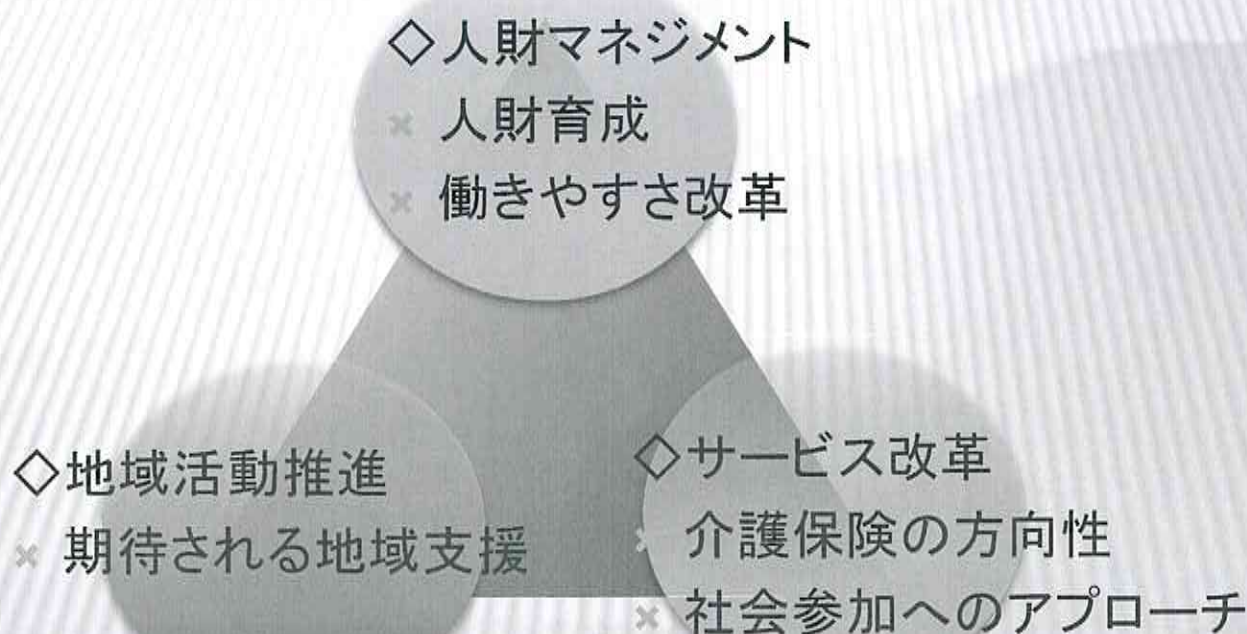
法人の事業所に大きく関連する部分としては通所介護にアウトカム評価を導入し、ADLが維持または改善した利用者の割合が一定水準以上の事業所の評価を新たに設けるという仕組みづくりが始まり、ますますサービスの提供だけにとどまらず利用者の実質的な生活の質の向上が求められていく流れであるため、入所系通所系問わず中重度者へ対応できる人材の育成を進めていきながら、具体的に利用者の身体状況の評価やICFにおける、活動・参加部分により焦点を当てた生活機能の向上を目指していくことがこれからの計画としては必須とされると考えられる。

地域の医療介護の質の向上のため、当法人における役割は大きいと考え、より積極的な地域へのアプローチを行い、レベルの高いサービスの提供が出来るように進んでいく必要がある。

## 第7期中長期計画の位置づけ



## 重点的に進めて行く内容



## ◇人財マネジメントについて

### × 人財育成、働きやすさ改革

介護職については肯定的なイメージもある一方で、「夜勤などがあり、きつい仕事」、「給与水準が低い仕事」、「将来に不安がある仕事」など、一面的な見方が流布され、マイナスイメージが生じており、人材の参入の阻害要因となっているとの指摘がある。入職時には、介護という仕事への思いに比べると、法人・事業所の理念・方針や職場の状況、子育てなどの面への関心は相対的に低い状況である。介護人材確保の持続可能性を確保する観点から、前回の中長期計画から引き続き、量的確保のみならず、質的確保及びこれらの好循環を生み出すための環境整備の三位一体の取組を進めていくことが重要であり、人口減少による慢性的な人手不足も続いていくことが想定されるため、その対応としてIoTの活用や、ロボットの導入などが必要になるとも考えられる。

#### 【第7期中長期計画で重点的に進めて行く事項】

- ①福利厚生充実(有給休暇の取得率向上など、処遇改善や働きやすさの改革の推進)
- ②より個別化したキャリアパスの実施や継続(キャリアシートの管理)
- ③社会的地位向上のための専門性の確立(各種研修への参加促進)
- ④独自の介護職員マイスター制度による介護職員のレベルアップ(ケアスキルマイスター)
- ⑤介護人材が目指す全体像(イメージの共有)
- ⑥業務の効率化と質の維持の取り組み(ICTやIoTの積極的な活用)

## ◇サービス改革

### × 介護保険の方向性

団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、国民1人1人が状態に応じた適切なサービスを受けられるよう、質が高く効率的な介護の提供体制の整備を推進し、特に中重度の方でもどこに住んでも適切な医療・介護サービスが受けられるような仕組みづくりがより一層進んでいくと考えられる。

#### 【第7期中長期計画で重点的に進めて行く事項】

- ①中重度の方へ対応できる職員や環境づくり(医療依存度の高い方への対応や、リハビリテーション介入の必要性への対応と外部の医療機関やリハビリテーション施設との連携力強化)
- ②地域の中での在宅から施設まで幅広いニーズへの対応力を熟成させ、より期待に応える
- ③改善事例を増やし、困りごとを持っている方へのピアサポートでの対応を考える(改善事例の報告)

### × 社会参加へのアプローチ

自立の解釈をもう一度見つめ直し、身体機能や生活動作の安定を図るための支援を行いながら、同時に地域の中でどう生きて、どう繋がっていくことが出来るかを一緒に考えていくことが重要になる。軽度者の地域活動復帰や、重度者であってもその中で幅広い意味での「じりつ」した生活を出来るように支援していく必要がある。

#### 【第7期中長期計画で重点的に進めて行く事項】

- ①井料ゴールド人財プログラム(役割獲得支援)
- ②夢旅倶楽部(本人家族の「もう一度」を後押し)
- ③介護予防に資する取り組みの継続(きりしま元気倶楽部・市民公開講座)

# ◇地域活動推進

## × 我々の地域での役割

私たちは医療法人誠井会の「職員」の立場でありながらも自宅に帰れば、「地域住民」である。地域住民としての視点で、医療介護分野の専門職に何を求めているのかを考え、その役割を担うことが出来るように事業所と住民という垣根を崩していく取り組みを行うことが必要であると考えられる。また、これからは「地域共生社会」の実現のため、社会構造の変化や人々の暮らしの変化を踏まえ、制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていく先頭に立っていく。

### 【第7期中長期計画で重点的に進めて行く事項】

- ①継続的な地域行事や活動への積極的な参加
- ②地域住民に対しての医療介護知識の普及啓発活動の実施
- ③地域づくりに資する取り組みの実施による、地域住民同士の結びつきを強くする働きかけ
- ④地域包括ケアシステムの実現のための連携作業として、地域の障害者分野や児童分野との連携を図り、すべての人が健康で幸せにらせる住みやすい地域にしていくこと、また、安心して、最期まで住み慣れた場所で暮らせるための仕組みづくりを進めていく、